

「ごたんのココロ便り」

平成 25 年度 VOL.4

こんにちは。気がつけば秋もすっかり深まり、街路樹の葉っぱもだいぶ色づいてきました。2 学期の大きな行事のひとつである「お遊戯会」に向けて、これから子どもたちの練習にも力が入ってくる時期でもありますね。



さて先日私が担当している小学校の授業を見学している時に、次のような一場面がありました。

児童A「先生、Bちゃん、足が痛いみたいです。」

先生 「Bちゃん、どうしたの？」(Bちゃんは黙ってうなずく)

(先生はBちゃんに痛みの程度を確認した後に、クラスの児童に向かって言いました)

先生 「具合が悪かったり、どこか痛い時には、自分のことは自分が一番よく分かるのだから、自分で言えるときは自分で言いに来てくださいね。」

おそらく先生は、親切に教えてくれた A さんの気持ちに配慮しつつも、自分で伝えることの大切さをみんなに教えようとしたのだと思います。

子どもが小さい時には、とかく親が先回りして「〇〇なのでしょ？」と子どもの考えや気持ちの代弁者になってしまうことがよくあります。しかしいつまでも親が代弁してしまうと、そのうち自分の考えや気持ちを伝えることが苦手になったり、誰かに言ってもらうことを期待してしまうようになります。そうなりますと、思うように自分の考えや気持ちが伝えられず、人と関わるのがストレスに感じるようになりかねません。

そうならないためにも、普段から自分の考えや気持ちを意思表示できる機会をたくさんつくっていただけると良いのではないのでしょうか。最初は思ったように伝えられないお子さんでも、意思表示するのをゆっくり待ってあげることで、徐々に安心して伝えられるようになると思います。

問題を起こした際は、叱る前に「どうしたの？」

行動を起こすときに迷っていたら、こうしなさいと言う前に「どうしたいの？」

余裕がない時は
難しいですが

保護者の皆様が安心してお子様に接することができるよう、発達や子育てのことに限らず、気掛かりなことなどがございましたら、どうぞお気軽にご相談ください。尚、ご相談をご希望の方は、ご予約枠に限りがございますので、お早めに先生を通じてお申込みください。

五反野幼稚園カウンセラー
臨床心理士 橋 倉